



# しびき



## CONTENTS

- 4 2020年度出荷実績／200Lドラム缶市場動向推移
- 3 鋼製ドラムは「リサイクルの優等生」  
SDGs講演会開催
- 3 「ドラム缶内部の清浄度測定方法に関するJSDA標準」改訂  
「鋼製ペールJIS Z 16200:2020改訂内容の概要」発行
- 2 新社長登場 (株) ジャパンペール 大淵 泰宏  
ダイカン (株) 吉岡正俊
- 2 2021年度役員・委員長の紹介
- 1 安全委員会報告

83



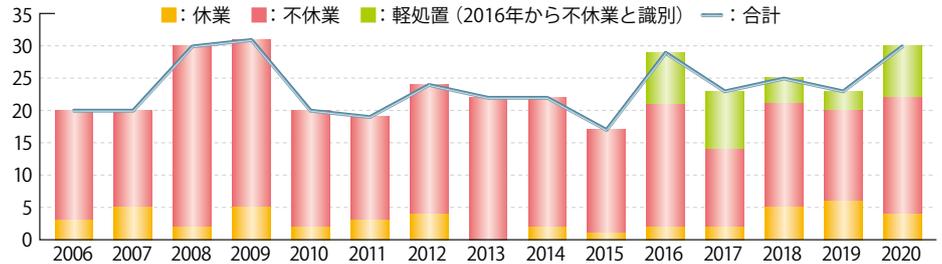
## 安全は全てに 優先する — 安全委員会報告 —

ドラム缶工業会 理事長 那須 七信

ドラム缶工業会は、正会員11社で労働災害撲滅のために安全委員会（渡邊琢委員長）を組織し、活動しています。

各社2名の安全委員を指名し、各社の活動や労災発生情報を共有するとともに、毎年7月には各社の安全・衛生活動の相互事例発表会を開催し、また4月と11月には会員工場の相互見学会を行いディスカッションを重ねています。

労災発生件数の推移



これはドラム缶工業会11社の労災発生数の推移です。軽処置を含めて毎年20～30件の労災が発生しており、減少傾向とは必ずしも言えません。会員各社は、都度、発生状況を報告するとともに、要因と対策の確認を行っています。その上で、年間単位で事故の型別、起因物別、作業の種類別、不安全な行動別、不安全な状態別、経験年数別、年齢別、傷害部位別の類別化をして分析を行い、傾向と対策を委員会の全員で確認しています。

しかし、2020年はコロナ禍のため皆で集まっての活動はできず、相互事例発表会と相互見学会は中止せざるを得ませんでした。

「安全は全てに優先します。」2021年は年初からリモートで委員会を再開し、7月にはリモートで相互事例発表会を再開しました。各社の委員に加え、リモート開催の利点として多数の参加者を得る中で、類別すると以下の発表が行われました。

- ① 会員会社で発生した労災事例の原因と対策の再確認（教育だけではなく設備対応）。
- ② 最少件数（1件のみ）発生した会社（工場）での、いかにゼロ化するかの活動。
- ③ 労災予防への徹底したリスクアセスメントの事例（作業方法の見直しや設備対応）。
- ④ 各社における安全・衛生組織のあり方（位置づけ）。
- ⑤ 熱中症対策、新型コロナ対策での衛生活動。

特に今回の特徴として、新型コロナ対策が11社のうち8社で何らかの形で取り上げられました。社員への感染予防対策に始まり、感染時の特別休暇と復職、工場の操業と並行してワクチン接種の進め方、接種者のリスト化や特別休暇の制度化、個人情報保護との関係等も紹介され、活発な質疑応答が行われました。

安全・衛生に終わりはありません。安全委員会では、常時、以下の3点を心がけ、今後も活動を継続していきます。

1. ドラム缶・ペール缶製造は 1) 近接作業、2) ライン稼働中の作業が特徴であり「止める・離れる・足場の確認」が基本。
2. 労災は、1) 設備対策で抑えるか、2) 啓蒙活動で抑えるか。
3. 労災発生後の対策を、いかに他工場、各社で共有できるかが重要。



リモートで開催している安全委員会の様子

# 2021年度役員・委員長の紹介

2021年6月24日現在

■ 理事長		那須 七信	JFEコンテナ (株)	代表取締役社長
■ 副理事長	● 200L缶関係	藤井 清澄	日鉄ドラム (株)	代表取締役社長
	● 中小型缶関係	山本 和男	(株)山本工作所	代表取締役社長
	● ペール缶関係	前田 洋子	(株)前田製作所	代表取締役社長
■ 常任理事	■ 兼監事	内藤 誠	斎藤ドラム罐工業 (株)	代表取締役社長
		大淵 泰宏	(株)ジャパンペール	代表取締役社長
	■ 兼監事	金子 賢三	新邦工業 (株)	代表取締役社長
		吉岡 正俊	ダイカン (株)	代表取締役社長
		今井 久代	(株)東京ドラム罐製作所	代表取締役社長
		鈴木 康友	東邦シートフレーム (株)	代表取締役社長
		長尾 浩志	(株)長尾製缶所	代表取締役社長
	■ 委員長	● 企画・統計委員長	村上 伸二	JFEコンテナ (株)
● 技術委員長		島田 政則	日鉄ドラム (株)	取締役常務執行役員
● ペール委員長		足立 敏	(株)前田製作所	取締役品質管理部長
● 安全委員長		渡邊 琢	東邦シートフレーム (株)	総務部担当部長
■ 事務局長		坂元 信之	ドラム缶工業会	専務理事

## 新社長登場

### 株式会社ジャパンペール 大淵 泰宏



本年4月より黒田前社長の後任として就任いたしました。どうぞ宜しくお願いいたします。

商社へ入社以来、31年に亘り薄板素材の流通に従事してまいりましたので、今般、最終製品の製造・販売に携わることとなり一層身の引き締まる思いを抱えています。

鋼製ペール缶は、お客様の商品を安全に需要家様へお届けする為のラストワンマイルを支える、なくてはならない容器であり、温暖化対策であるカーボンニュートラルの実現においても、担うべき社会的役割は決して小さくはない環境にやさしい容器です。これからの循環型社会を支える大切な機能のひとつとして常に進化・成長し続けたいと考えております。

様々な環境変化が非連続に発生する状況下ではありますが、業界の永続的な発展に貢献しつつ新たな風の発信源となれますよう、社員の知恵と経験、そして多くのパートナー企業の皆様の高い技術力を結集してまいり所存ですので、変わらぬご指導を賜れますと幸甚です。

東京生まれで初の関西勤務となります。環境が許されるようになりましたら、あらためて上方文化の奥深さに触れてみたいと思っています。

### ダイカン株式会社 吉岡 正俊



1987年に(株)神戸製鋼所に入社。社歴は、前半を主に自動車や電機情報機器向け薄板の営業担当、後半は、香港とデトロイトに駐在し海外提携や統括会社運営に携わりました。入社当時の鉄鋼業界は、バブル経済の始まりで、その後の鉄冷え、中国の爆買い、リーマンショック等を経て、足元でもカーボンニュートラルへの対応等、さまざまな変化にチャレンジしてきました。

この度、100年企業であるダイカン(株)の社長に就任、従業員には、次の100年に向けて、脱炭素社会の到来等によるお客様ニーズの変化を捉え、製品開発に繋げていこう、と訓示しました。また、当工業会でも取り組んでいる職場の安全と法令順守は、経営の最優先課題であることから、情報共有に努め、当社でも成果に結び付けていきたい。ダイカン(株)の業界でのプレゼンス向上に努めるとともに、業界のさらなる発展に向けて尽力して参ります。

1963年11月生(57歳)、大阪府柏原市出身。

## パンフレット 「鋼製ペールJIS Z 1620:2020 改正内容の概要」の発行

2020年11月20日に公示されたJIS Z 1620の改正のポイントを分かりやすく解説したパンフレットを発行しました。ホームページに掲載していますのでご活用をお願いします。

([http://www.jsda.gr.jp/news/pdf/20210412\\_jis\\_z\\_1620.pdf](http://www.jsda.gr.jp/news/pdf/20210412_jis_z_1620.pdf))

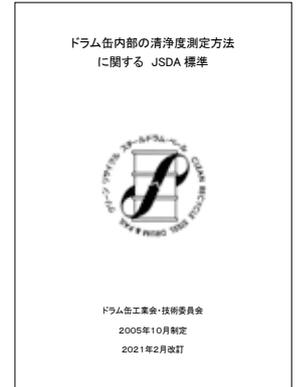


## 「ドラム缶内部の清浄度測定方法に関するJSDA標準」の改訂

2021年2月に「ドラム缶内部の清浄度測定方法に関するJSDA標準」を改訂しました。

2005年の第1版では、JSDA標準は、NAS 1638 (National Aerospace Standards)を参考基準として用いていましたが、この度、汚染粒子数測定機器の校正法がISO 4402 からISO 11171に変更になり、NAS等級 (NAS 1638) 清浄度コードによる汚染評価を終了することになったため、参考基準をISO 4406 (International Organization for Standard 4406) に改訂しました。なお、測定方法についての変更はありません。

詳細はホームページに掲載していますのでご確認ください。(http://www.jsda.gr.jp/drum/jsda.pdf)



## SDGs講演会を開催しました

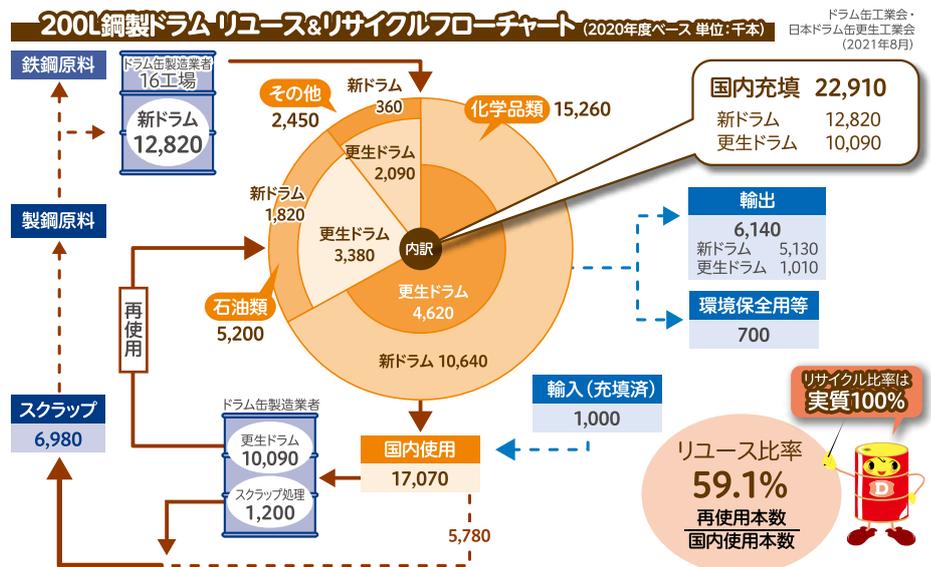
2月18日に、(株)エクス都市研究所の網岡健司参与を講師に迎え、「SDGs 概論」と題し講演会をリモートで行いました。持続可能な開発目標 (SDGs) の成り立ち、私たちの暮らしとのつながり、企業を取り巻く「守りのSDGs」と「攻めのSDGs」等について取り上げ、会員企業から40名の出席がありました。

この講演会をきっかけに、現在、ドラム缶工業会ではドラム缶、ペール缶とSDGsのターゲットの紐付け、強み・弱み (得意・不得意) の分析を進めています。

# 鋼製ドラムは“リサイクルの優等生”

## 資源としてのリサイクル比率は実質100%

鋼製ドラムは使用后、一部は更生缶メーカーに回収され、一部はユーザーから直接スクラップ処理業者に回収されています。ドラム缶はこのようにリユース (再利用) およびリサイクル (再利用) のシステムが確立しており、循環型リサイクルの優等生といえます。右の図は2020年度版200L鋼製ドラム リユース&リサイクルフローチャートです。ドラム缶のリユース比率は59.1%になりますが、環境保全用ドラム缶を除くと、資源としてのリサイクル比率は実質100%になります。



	当初(1997年)	2015年度ベース	2016年度ベース	2017年度ベース	2018年度ベース	2019年度ベース	2020年度ベース	
工場数	18工場	16工場(変わらず)	16工場(変わらず)	16工場(変わらず)	16工場(変わらず)	16工場(変わらず)	16工場(変わらず)	
製造本数	新ドラム	12,000千本	13,570千本 (▲1.1%)	13,640千本 (+0.5%)	14,130千本 (+3.6%)	14,000千本 (▲0.9%)	13,560千本 (▲3.1%)	12,820千本 (▲5.5%)
	更生ドラム	16,000千本	10,850千本 (▲0.9%)	10,920千本 (+0.6%)	11,020千本 (+0.9%)	11,240千本 (+2.0%)	10,720千本 (▲4.6%)	10,090千本 (▲5.9%)
国内充填	28,000千本	24,420千本 (▲1.1%)	24,560千本 (+0.6%)	25,150千本 (+2.4%)	25,240千本 (+0.4%)	24,280千本 (▲3.8%)	22,910千本 (▲5.6%)	
国内使用	26,000千本	18,210千本 (▲1.0%)	18,310千本 (+0.5%)	18,700千本 (+2.1%)	18,820千本 (+0.6%)	18,080千本 (▲3.9%)	17,070千本 (▲5.6%)	
リユース比率	61.5%	59.6% (+0.1%)	59.6% (0.0%)	58.9% (▲0.7%)	59.7% (+0.8%)	59.3% (▲0.4%)	59.1% (▲0.2%)	

# 2020年度出荷実績

2020年度の200L缶の出荷は、前年度に比べ5.4%減、736千本減の12,824千本となりました。

用途別では、前年度に比べ化学向け(5.8%減、616千本減)、塗料向け(9.5%減、70千本減)、食料品向け(9.2%減、20千本減)、その他向け(17.6%減、35千本減)が減少し、石油向け(0.3%増、5千本増)が増加しました。

ペール缶は前年度比5.3%減の17,660千本、中小型缶は同6.7%減の448千本となりました。

## 2020年度缶種別・用途別出荷実績

缶種	2020年度実績						
	本数 (千本)	前年度比 (%)	用途別〔本数(千本)〕				
			石油	化学	塗料	食料品	その他
200L缶	12,824	94.6	1,821 (100.3)	9,974 (94.2)	668 (90.5)	200 (90.8)	162 (82.4)
ペール缶	17,660	94.7	9,691 (96.0)	6,987 (93.5)	461 (91.1)	0	521 (92.5)
中小型缶	448	93.3	3	435	0	0	10
亜鉛鉄板缶	343	86.0	2	333	3	3	3
ステンレス缶	27	89.5	0	27	0	0	0
合計	31,302	—	11,516	17,755	1,132	203	695
※前年度比(%)	—	—	99.2	94.1	90.1	91.0	84.5
※構成比(%)	—	—	17.6	74.4	5.0	1.5	1.5

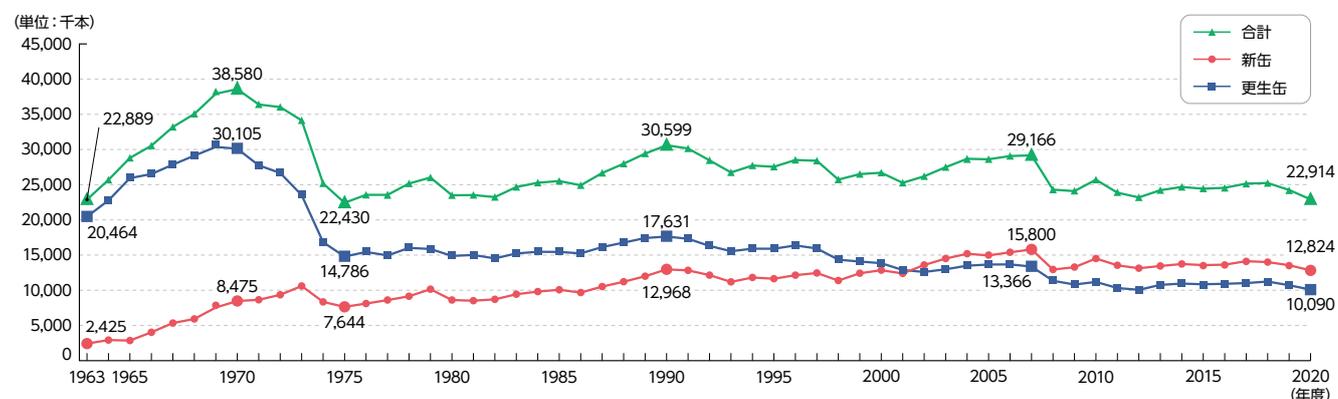
(注) 1. 用途別200L缶、ペール缶の下端( )は前年度比。

2. ※前年度比ならびに、※構成比は、トン数ベース。

3. 亜鉛鉄板缶、ステンレス缶は、200Lドラムおよび中小型缶を含む。

4. 総本数は、31,302,041本。表上数値は四捨五入による差異がある。

## 200Lドラム缶市場動向推移(1963年度~2020年度)



(注) 1. 千本以下四捨五入。

2. 1963年度の新生生産本数は不明につき、生産トン数67,002トン(1965年暦年平均単重27.63kg)で逆算して算出した。

### 編集後記

新型コロナウイルス感染症に対する政府からの出勤削減の要請を受け、ドラム缶工業会事務局はテレワークを実施しており、現在、7割強の出勤を削減しています。

事務局へのご連絡は以下にいただければ、直ぐにご返事いたします。

電話:03-3669-5141

ボイスメールにご用件と連絡先をお願いします。

e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

ご不便をお掛けしますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### 会員

#### 《正会員》

- 斎藤ドラム罐工業(株)
- JFEコンテナ(株)
- (株) ジャパンペール
- 新邦工業(株)
- ダイカン(株)
- (株) 東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム(株)
- (株) 長尾製缶所
- 日鉄ドラム(株)
- (株) 前田製作所
- (株) 山本工作所

#### 《準会員》

- 森島金属工業(株)

#### 《賛助会員》

- エノモト工業(株)
- (株) 大和鉄工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株) 城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株) 水上工作所

## ドラム缶工業会

〒103-0025  
東京都中央区日本橋茅場町3-2-10  
(鉄鋼会館6階)  
TEL 03-3669-5141  
FAX 03-3669-2969  
e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

URL: <http://www.jsda.gr.jp/>

ひびきNo.83(2021年9月3日発行)

発行人 ドラム缶工業会  
専務理事 事務局長 坂元 信之

無断での複製、転載はお断りいたします。詳細はお問い合わせ下さい。  
本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。